

氏名	和田 啓介
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	乙第340号
学位授与年月日	令和8年2月9日
審査委員	主査 教授 佐野 千晶
	副査 教授 廣井 直樹
	副査 准教授 定金 敦子

論文審査の結果の要旨

日本の学校健診では成長曲線が児童生徒の健康管理に広く用いられており、近年成長評価への積極的な活用が求められている。しかし、既存の成長曲線の判定プログラム (V4) では学校現場での手間を要する。また、思春期早発症など治療介入が有効な成長異常が見逃される一方、偽陽性が多いため、学校や成長曲線を判定する委員会の負担となっている。そこで申請者は、学校健診の現場で簡便かつ高精度に成長異常を検出することを目的として、Microsoft Excel (VBA: Visual Basic for Applicationsを利用) 上で動作する新たな成長評価プログラム「Growth Assessment Program for Schools (GAPS)」を開発し、その有用性を検証した。2021年に出雲市で実施された学校健診データ (6~15歳、12,573人) を用い、V4 プログラムとGAPSプログラムとの比較検討を行った。GAPSは、個別成長曲線の作成と異常パターンの抽出をワンクリックで行うことが可能であり、V4では正常で評価対象とならなかった症例 (10,703人) の中から思春期早発症を含む成長異常症例 (407人) を新たに検出した。診断精度の検討では、GAPSはV4と比較して感度 (0.24→0.99) および陽性的中率 (0.09→0.16) が高く見逃しを大幅に減少させた一方、偽陽性率の増加が認められた (0.11→0.24)。GAPSは非専門医や養護教諭を含む学校関係者でも容易に使用可能であり、学校健診における成長異常の早期発見と評価の質の向上、ならびに学校保健と医療の連携強化に寄与するツールとして有用である。